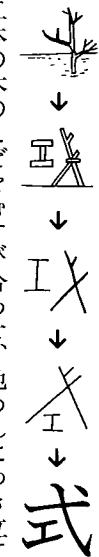


式

三年 筆順 一式式
回数 6
成り立ち
オノ シキ
クン



一本の木のえだをむすび合わせ、地めんにつき立てた「目じるし」の形をあらわした「弋」と、工作のいみの「工」とを組み合わせて作った字で、「工作の目じるしとなるもの」→「型（かた）」をあらわした字です。

今では、工作にかぎらず、ものごとをするばあいに、「よりどころとするもの（お手本）」のことを「式」といいます。例：入学式、始業式、成人式。

また、「式」に従つて行われる「もよおし」のことを「式」といいます。例：入学式、始業式、成人式。

「弋」は「杙（くい）」の本字である。杙は目じるしに打たれたので、「目じるし」の意味になり、そのため、「木」を加えて新しく作つたものである。」

実

三年 回数 8
筆順 実
オノ シツ
クン
み・みのり
成り立ち



「家」の形をあらわし、家のいみをあらわした「宀」と「大ぜいの人（众（衆年911））」のいみをあらわした「夫（三と人で众のいみ）」とを組み合わせた字です。

「家のなかに大ぜいの人（夫）がいる」ということで、「中みがいっぱい」であることをあらわした字です。

「中み」といういみから、くだものなどの「み」のいみにつかわれ、さらに、「実（み）がなる（みのる）」といういみにつかわれるようになりました。

「本字は『實』で、「家の中に財貨が充ち満ちていること」を表した字であり、「宀」と「貫」との会意字であるが、今の字体では、この解釈は通じない。「夫を三人→众」と考えることにした。」

三年

二二六

使い方

△今年は、ぼくの家では、いくつも式が重なりました。弟は小学校の入学式に出ました。ぼくのおじさんは入社式に出たのだそうです。ぼくは始業式にでました。△始業式の時、大きな白い紙に、「式次第」と書いてありました。何のことかと思って、あとでおかあさんに聞いたら、「式の順番のことよ」と教えてくれました。

熟語例

△入学式（学校へ入る儀式のことです。みなさん、一年生の時、入学式に出ましたね。中学校へ入る時、また、入学式に出ますよ。）
△始業式（「学業が、まだ始まる時に行う式」といういみです。各学年度のはじめに行います。）
△成人式（「成人」つまり「大人」になつた時に行う儀式のことです。日本では二十歳になつた時、行います。）
△書式（書く時のやり方。「書式にのつとつて書く」といえば、「書き方のお手本通りに書く」といういみになります。）

匂い方

熱語例

△うらのオレンジ畑では、オレンジの実がたくさん実っています。

△実を言うと、ぼくの家の猫はとてもわがままです。キヤットフードなど食べないで、ハムとかチーズばかりねだります。

△結実（木などが実を結ぶこと。また、そこから、結果として、できあがること。「日頃の成果が結実した」などというふうに、つかいます。）

△誠実（まじめで、実があること。誠意があること。「あの人は誠実な人だから、約束は守るにちがいない」などというふうに、つかいます。）

△事実（本当に起つたこと。「あの人と言つたことは事実だ」などというふうに、つかいます。）
△実態（本当の状態。「実態を調べてみたら、意外なことがわかつた」などというふうに、つかいます。）

三年

二二七